

第12回 医療と介護の連携を推進する会報告

2019.11.12

2019年11月12日 第12回医療と介護の連携を推進する会を開催しました。
テーマは「レビー小体型認知症と看護」

舞鶴市内の包括支援センター、訪問看護ステーション、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、市役所など介護サービス事業に関連した職員が44名の参加がありました。

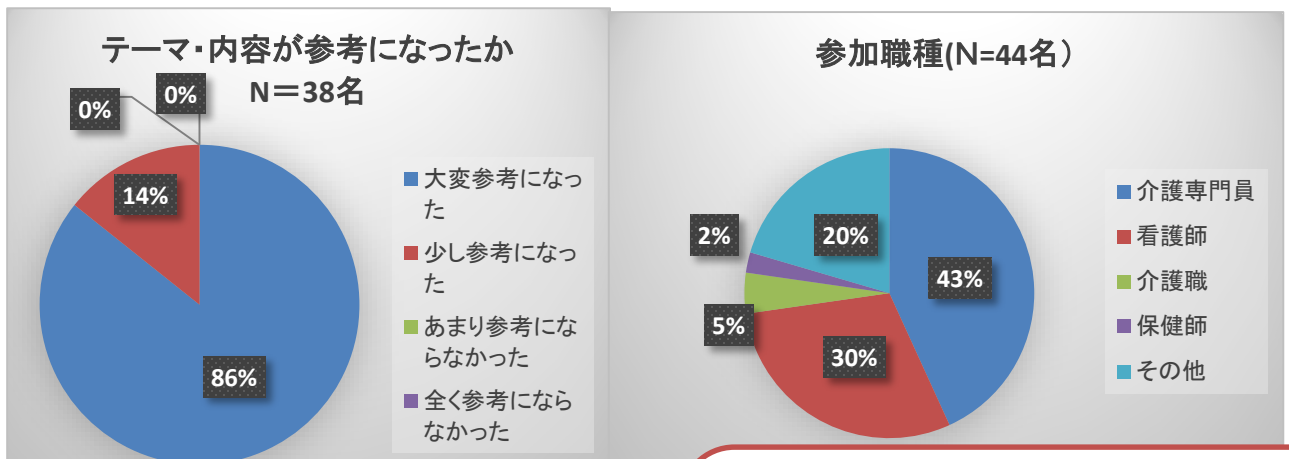
臨床研究部長の吉岡医師から「レビー小体型認知症とは」の講義では、レビー小体型認知症とアルツハイマー、パーキンソン症候群の病態や症状の違いの説明がありました。

そのあとで、現在レビー小体型認知症で、外来通院している実際の患者さんの症例検討をしました。

施設、職種を越えて熱く語りあいました。

次回は令和2年3月10日に開催予定です。(テーマはまだ未定です。)

次回も参加よろしくお願ひします。



参加者の声

- ・アルツハイマーとレビー小体型認知症の違いがよくわかりました。
- ・レビー小体型認知症とパーキンソンの違いがよくわかりました。
- ・レビー小体型認知症のケースを受け持っており、予後不良なのがショックです。

ケースの話し合いの意見

- ・サービス介入を嫌がっているけれど、地域包括が介入してケアマネをつけるべき.....だよな。
- ・警察沙汰になったりしているみたい、民生委員さんにも見守りを頼むべきだよな。などなど。

